

## 『適切なケアマネジメント手法・基本ケア研修』に参加して

報告者：戸出・中田地域包括支援センター 種村 恵

令和7年8月8日、11月27日、令和8年3月17日の計3回にわたり、国際医療福祉大学大学院教授 石山麗子先生を講師として『適切なケアマネジメント手法・基本ケア研修』が開催されました。

今回の研修では、地域包括支援センターに所属する現在の自分の支援姿勢を振り返る、とてもよい機会となりました。以前に私が居宅介護支援事業所で要介護者を担当していた頃と比べ、現在、勤務する地域包括支援センターでは比較的に自立度の高い方を担当することが多く、アセスメントが浅くなっていた場面があったことに改めて気づかされました。研修で学んだ in-out 活動状況表を用いたアセスメントを実践してみると、これまで見落としていた課題が複数浮かび上がりました。自立度の高い方は「食事や水分は適切に摂取されているだろう」と無意識に前提を置き、丁寧な確認を怠っていたことは大きな反省点です。

食事量や水分摂取量を実際に記録し、日々の変化を可視化することで、利用者の生活の実態がより立体的に把握できるようになりました。また、身長・体重から必要な水分量やカロリーを算出し、数値として「その方にとって必要な量」と「現状」を比較することの重要性も実感しました。根拠をもとに説明することで、利用者や家族にも状況を理解してもらいやすくなり、支援の方向性を共有しやすくなることも大きな学びでした。

今回の研修は、ケアマネジメントの基本に立ち返り、思い込みを排して丁寧にアセスメントすることの大切さを再確認する貴重な機会となりました。今後も、根拠に基づいた支援を積み重ね、利用者の生活の質の向上につなげていきたいと考えています。

※ この研修はオンラインにて開催されました。